

【3】木風地区ってこんなまちです

(木風地区の紹介)

この地区は、福石川の流域に位置し、軍港として発展したまちで、木風町、藤原町、稲荷町からなります。

大戦中には、木風バス停付近に、軍艦が入港した時のための海軍宿舎が造られていました。この宿舎は、戦後一時期、空襲によって全焼した木風小学校の校舎として利用されていました。

現在の木風町は、二つの重要なバイパスが走り、自然豊かで閑静な住宅地となっています。

藤原町緑坂の入口には、大戦中大きな無線工場があり、工場では女子学徒動員隊が働いていました。この工場までの道は広く、戦車が轟音を響かせて走っていました。

また、現在の歯科衛生士学院が建っている場所は、日水堤の跡地で、奥には軍事工場もありました。

現在の木風郵便局から福田外科付近までは、空襲によって焼け野原になりましたが、今では、日水公園の一角を中心に、最新の住宅地として開発が進んでいます。

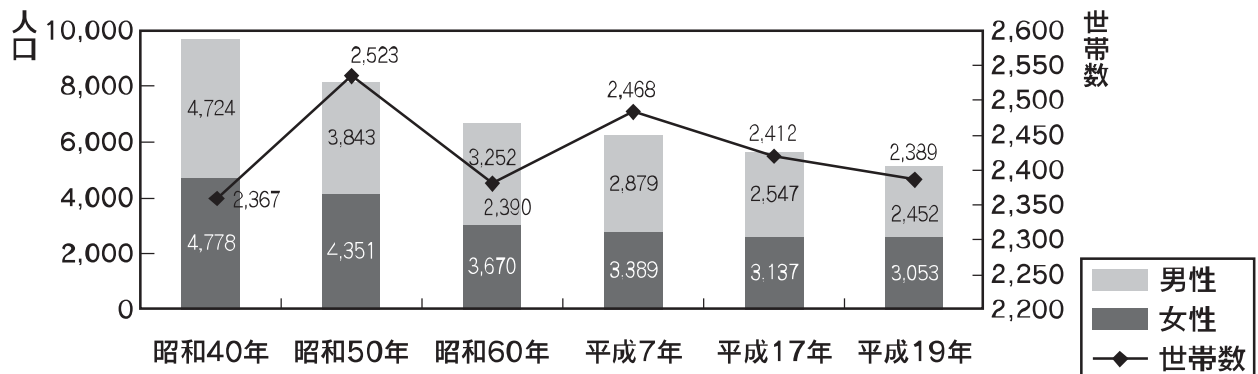
稲荷町には、かつて海軍刑務所がありました。また、大戦中は大型のサイレンが設置され、米軍機が来襲する度に、佐世保一円に大音量で警戒警報を発して市民に注意を促していました。

現在の稲荷町には、海軍刑務所の跡地を中心として、多くの公共施設が集中しています。

この地区の3町は、レクリエーションなどを通じて相互の親睦に努め、結び付きを深めています。



(木風地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



(木風地区“わがまち自慢”)

木風地区の“自慢”の一部を紹介します。※場所はP11～P12の地図をご参照下さい。

◎溪澗神社の由来

今から三百年あまり前、恵眼坊という、人望が厚く文武両道に優れ、相撲道の奥義を極めたお坊さんがいました。晩年には盲目となり、木風の米倉治舟(森田喜十郎遠祖)を訪れ寄宿していました。

ある日、依頼を受け祈禱に赴く途中で野火に合い、生涯を閉じました。

その翌年、このあたりに悪疫が流行しました。その際、誰が言うともなく恵眼坊の霊を祀り、悪疫退散を祈願したところ、間もなく悪疫が治まりました。

その後、大山祇尊、恵眼法師霊の二柱を祭神として「溪澗神社」がかまえられ、難病退散、五穀豊穰、家内安全の神、また木風、藤原の氏神として祀られています。



◎買牛稲荷神社

牛買稲荷バス停から山手の方へ行くと、実業家松尾良吉が創建した買牛稲荷神社があります。

伊万里出身で、佐世保を中心に活躍した良吉は、かねてから、多くの牛が牛肉として食されることを痛ましく思っていました。

そこで、屠殺された牛の霊を供養するため、神社を創建することを決意しこの地に土地を求め、当時のお金5万円を投じ、大正7年、社殿が完成しました。

神社は、京都伏見神社の分霊^{かんじょう}を勧請して「買牛稲荷神社」と名付けられ、近郊からの参拝人で賑うようになりました。

(郷土史家 山口日都志氏 談)



◎木風小学校とその周辺

木風小学校は昭和15年に開校し、平成20年に創立68周年を迎えました。平成20年度の児童数は273名です。学校周辺には、自然が残されており、総合的な学習などで活用しています。

木風小学校の校門下には、通称「173段の階段」があります。山澄中学校方面には「緑坂」もあります。子ども達は、毎日急な上り坂を元気に登校してきます。

また、木風小学校の近くには、有名な「お滝さん」の他、薬師如来や粟島さま（女性に多い病気を治す神様）、足ずりさん（足の病気を治す仏様）など貴重な史跡が多く残っています。



◎まつりの子どもみこし

戦後は一時休止していた時期もありましたが、世相が落ち着き、社殿が改築した際に祭事が復活しました。

地元公園までのお下り、演芸大会翌日のお上り、また若い衆が担ぐみこし、大勢の子ども達が担ぐ樽みこしで大いに賑わったものです。

近年、抽選会で本物の子どもみこしが当たってからは、大人もより力が入るようになりました。祭事があることで、町内の枠を超えての友人も増えます。準備は大変ですが楽しい催しです。

年々子どもが減っており、将来が心配ではありますが、夏休みで里帰りして来る子ども達にも参加を呼びかけて運営しています。



◎^{ひみず}日水公園の桜

春になると、日水公園の横には2本の桜が咲きほこり、心の浮き立つ季節となります。この桜は、80年くらい前からあったと思われます。

現在の歯科衛生士学院から日水公園一帯にかけて、昔は大きな日水の堤があり、子ども達が泳いだり、魚釣りをしたりしてよく遊んでいたそうです。

昭和40年頃は、土手の周りに5・6本の桜があり、その美しさは、地域の方々が今でもよく憶えておられます。現在残っている2本の桜は、当時、土手の周りに地域の人の手によって移し植えられたものです。

